

出前講座：巣箱づくり（上春別 CS 運営協議会）を実施しました。

9 月 28 日（土）上春別中学校で実施しました。

参加者は、小学生とその保護者 16 名で、なれない大工道具を使い、ムクドリ・コムクドリ用の巣箱を制作しました。子育てがはじまる春先に設置することや一度使用されたものは、秋に巣材をとりきれいにするなどの指導をしました。



殖民軌道根室線開通 100 周年記念フォーラムが開催されました。

9 月 28 日（土）町青少年プラザホールにて開催されました。

基調講演は、釧路市立博物館副館長 石川孝織氏から「北海道の生活を支えた殖民軌道・簡易軌道」、講演は、元雪印メグミルク別海工場長 佐々木正巳氏から「簡易軌道跡探訪記～掘り起こされた開南の転車台」、九州大学大学院教授 清水一史氏から「簡易軌道ディーゼル機関車動態保存の経緯について」のお話がありました。また、当館主幹 戸田博史から「別海町の殖民軌道・簡易軌道遺産とその活用について」の報告がありました。



最後に、別海村営軌道風蓮線思い出話座談会と題して、別海村営軌道風蓮線元運転手 吉田利治氏、別海村営軌道風蓮線元車掌 堀込哲夫氏、別海村営軌道風蓮線元乗客 加藤エミ子氏に登壇いただき当時のお話を聞きました。

会場には多くの参加者が集まり、北海道や別海町の開拓を支えた殖民軌道や簡易軌道の歴史を知り、町内に残るこれらの文化遺産を今後どう保存していくか考えるフォーラムとなりました。

奥行臼散策デーを開催しました。

9 月 29 日（日）奥行地区文化財にて開催されました。

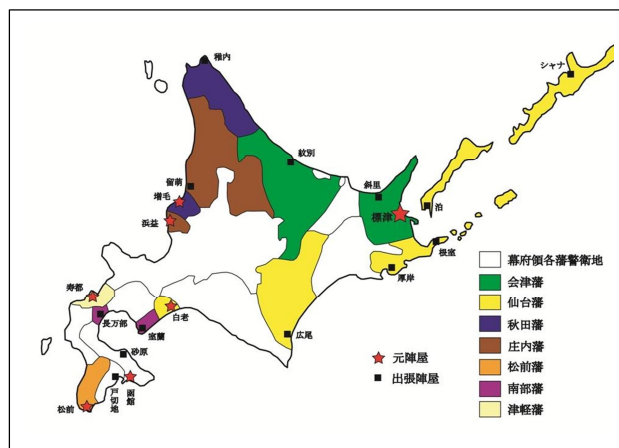
奥行臼駅トロッコ乗車体験、別海音頭・野付音頭手踊り披露、軽食提供、奥行地区文化財見どころツアーなど盛りだくさんの内容で多くの方が、文化財に触れる一日となりました。



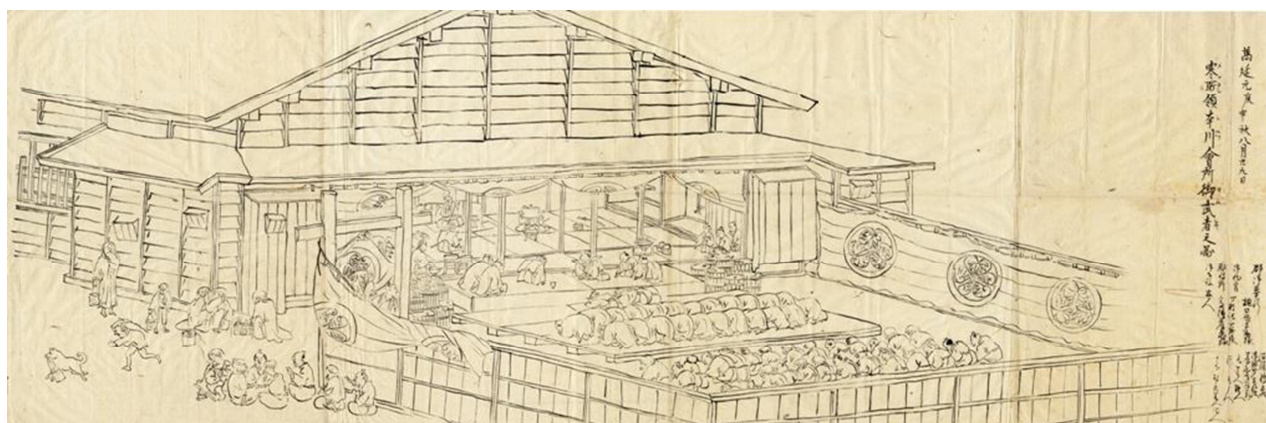
「メナシのアイヌとともに生きる～加賀伝蔵・松浦武四郎・南摩綱紀～」その 12
会津藩がメナシの地を治める

1858 年(安政 5)さらに北辺の警備を重視した幕府は、会津藩・仙台藩、秋田藩、庄内藩、南部藩、津軽藩に蝦夷地を分割給与し警備と開拓にあたらせました。(上段図)

根室場所は、ニシベツ(別海町本別海)を境に北
安政六年蝦夷地各藩領区分
側を会津藩、南側を仙台藩と定められました。この境界を境に分割されることに対してメナシのアイヌは、不安をいただきました。加賀伝蔵は、アイヌの願いを取りまとめ根室詰合に陳情書を提出しています。



安政六年蝦夷地各藩領区分



「寒所領本川会所御武者之図」(別海町加賀家文書館蔵)

北辺警備と開拓の命を受けた会津藩は、標津・斜里・紋別の三場所を統治することになり、拠点を標津(標津町)に決めました。1860年(万延元)、郡奉行樋口佐多助、一ノ瀬紀一郎、高津藤蔵ら藩士20数名を派遣し、領地の受取りを済ませ、現地の漁場番人やアイヌを集め、「ラムシャ」と呼ばれる各種取り決めごとを申し渡す儀式を行っています。そして翌1861年(文久元)以降、藩士とその家族を新領地に次々と派遣し、本格的な警備と開拓に着手しました。(中段写真)

このころ会津藩は、財政が苦しく秋に群れをなして川にのぼる鮭は宝の山でした。その様子を描いたものに『標津番屋屏風』があります。鮭を藩の経営基盤として重視していたことがわかります。なぜ、会津藩はこの地方の鮭の価値を知り活用できたのか、鍵を握るのが松浦武四郎でした。会津藩は統治の前年に蝦夷地通であり海防問題の専門家である武四郎のもとを訪れています。メナシの鮭の価値やこの地方の実情を得たと思われます。

別海町郷土資料館だより No.303

発行日 令和 6 年 1 0 月 1 日
発行所 別海町郷土資料館
別海町別海宮舞町 30 番地
電話 0153-75-0802 (FAX 兼)

編輯後記

殖民軌道フォーラムや奥行臼散策デーには、町外から多くの方が集まり関心の高さが伺えました。

季節は秋となり、ヒシクイが編隊を組んで飛ぶなど渡り鳥が活発に移動する時期になりました。来月は、野付半島にてコクガンの観察会も実施しますので、ぜひ、ご参加ください。